

ソクラテスと「哲学の始まり」 — 『ソクラテスの弁明』を読む

2016年1月14日（木）18：10－19：40

環on（人間・環境学研究科棟1F）

コーディネーター：阿部将伸さん

<人間・環境学研究科卒業生、博士（人間・環境学）>



『ソクラテスの弁明』プラトン著；納富信留訳

<光文社古典新訳文庫 [KB72-3]> 1F グレートブックス 131.3||S||4

・当日、本をお持ちの方はご持参ください（光文社文庫版以外のものでも結構です）。

本がなくても大丈夫なように、プリントをご用意します。

・できれば事前に読んでいただきたいですが、未読でも構いません。

<阿部さんよりひとこと>

哲学（史）の入門書では、しばしばソクラテスが「最初の哲学者」として登場します。しかし、ソクラテスは1冊も本を書いていません。そんな人間がなぜ「哲学を始めた」とされているのでしょうか。そもそも哲学者とは何者で、哲学とはいったい何を意味するのか。そして、どのようにすれば哲学は始まるのでしょうか。

プラトン著『ソクラテスの弁明』を読み解きながら、「哲学の始まり」について考えてみたいと思います。

さて、今日の私たちも哲学を始める必要があるのでしょうか？

<申込方法>

事前予約優先（当日参加も可）です。問合せ先アドレス宛にメールでお申込みください。件名を「プラトン読書会」とし、お名前、ご所属を明記してください。

※いただいた情報はコーディネーターにお知らせします。どうぞご了承ください。また今後の読書会のご案内を図書館から送らせていただくことがございますが、それ以外の目的には使用しません。

<問合せ先>

京都大学 吉田南総合図書館：道遥館

MAIL：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

TEL：075-753-6524, 6525

Twitter：@yoshidasouthlib

WEB：http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/

